

# 「スライムくたさーい!?!」? 地域に溶け込む薬のスペシャリスト めざすところは「総合薬局」

クローバーリーフ  
薬局

「スライムくたさーい!」。子どもの声が、クローバーリーフ薬局（大田区千鳥、千葉憲一社長、03・6410・2013、<http://www.mille-feuille.co.jp/clp/>）の待合室に響く。どうやらちょうどよい固さのスライムができなかつたらしく、調剤の合間に、薬剤師がスライムの調整方法を説明している。そんな光景に和む薬局である。

調剤業務をメインとする小規模な薬局で待合室も広くはないが、一般医薬品はもちろん、雑貨類からオリジナルの実験キットまで、幅広い分野の商品が並ぶ。「商品がきっかけで患者さんとコミュニケーションが図れ、投薬時の服薬指導にも活かせるのではないかと」千葉社長は考えている。

毎年夏、小学生を対象に開催している「調剤体験」イベントでは、チョコレート菓子を使用した「錠剤」や着色粉糖の「散薬」、トースト用クリームの「軟膏」が用意され、

調剤業務の流れを本格的に体験できる内容となっている。白衣を着て真剣に取り組む小学生が、保護者の方に体験の模様を話して聞かせる満面の笑顔が印象的だった。

そんな昔ながらの町の薬屋さんをめざす一方で、在宅介護者や老人ホーム入所者の処方箋をまとめて応需している。飲み忘れや嚥下困難など、普通に調剤しただけでは服用が難しい患者さんに、薬剤変更や既存薬剤の粉砕など、個々の状況に合わせた調剤を行い、患者宅を訪問し、服薬指導を行う。まさに薬のスペシャリストとして地域医療に貢献している。

スライムから地域医療まで、既に「総合薬局」として定着しているように見えるが、千葉社長は「これからも、身近に感じていただける薬局、最初に相談していただける環境づくりを続けたい」と意気込む。



薬剤からスライムなどの実験キットまで、さまざまな商品が並んだ店内



子どもも大人も親しみやすい「総合薬局」をめざしている千葉社長